

2022年5月20日「みんなで実現する船のCO2削減」
～新たな船舶燃料の導入に向けた国際動向の最前線と展望～
佐藤理事長 閉会挨拶

運輸総合研究所理事長の佐藤です。お疲れのところ恐縮ですが、閉会に当たり一言申し上げます。

まず、ご登壇いただいた東京大学名誉教授で海洋開発機構理事長の大和先生、東京大学の稗方先生、伊藤忠商事の赤松室長、国交省の塩入室長、長時間にわたりご参加いただいた大勢の視聴者の皆様、そして当研究所の活動をご支援いただいている日本財団に御礼を申し上げます。

また、本日、講演を行った当研究所の大坪客員研究員には、本年2月に当研究所が開催した「国際海運セミナー／新たな船舶燃料のライフサイクルアセスメント」においても国際海事機関(IMO)関係者向けに講演を行っていただきました。この場を借りて、重ねて厚く御礼申し上げます。

皆様ご存知の通り、前国交省海事局長の大坪さんは、「国際海運からのCO2排出を削減するためのグローバル規制の構築に関する研究」で東京大学博士号を取得されている、この分野における第一人者であります。

ここでちょっとしたエピソードを披露させていただきますと、昨年7月、大坪前海事局長が退官された翌週に、当研究所へ退職のご挨拶にお見えになりました。その際、宿利会長と私は、当研究所が実施中の「海運分野におけるCO2排出削減に関する調査研究」に大坪さんの知見を是非ともお借りしたいと考え、唐突に、客員研究員への就任を依頼しました。大坪さんにとっては全く予期せぬ事だったと思いますが、その場でご快諾いただきました。このようにして、大坪さんは、当研究所にとってなくてはならない存在となったわけであります。

さて、今年度から、当研究所に、日本財団のご厚意で「交通運輸・観光分野における政策課題解決に向けたグローバルな調査研究基金」が創設されました。

先月19日に開催された「国際海運2050カーボンニュートラルに向けた官民協議会」では、民側から「カーボンニュートラルについては欧州が先進的であり、欧州の動向を

注視していく必要がある」との意見が出されたと報道されているところですが、当研究所といたしましては、このグローバル調査研究基金も活用し、欧州における海運を含む運輸交通分野のカーボンニュートラルに向けた先進的な取組みを調査し、その成果を本日のセミナーのような形で発信することにより、皆様と共に考察を深めてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私からは以上です。この後、今後の予定のお知らせがあります。また、アンケートへのご協力も、よろしくお願いいたします。

本日は、最後までご参加いただき、誠にありがとうございました。

以上